

ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社／ブロードキャスト・サテライト・
ディズニー株式会社（以下「ディズニー」という）

第二十八回ディズニー・チャンネル／ディズニーXD／ディズニージュニア

放送番組審議会

議事録

- 開催日時 : 2017年04月10日(月) 14:00～15:30
開催場所 : 東京都港区虎ノ門1-23-1
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
27F 会議室
- 在任審議委員数 : 7
出席審議委員数 : 6
出席審議委員氏名 : 阿部 京子
木下 美子
戸田 奈津子
名越 康文
前田 耕作
山田 顕喜
- その他、ディズニ : 編成部門担当者5名
ーからの出席者

- 議案**
- 1) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD及びディズニージュニアの番組編成・改編について
 - 2) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD及びディズニージュニアの放送番組について
(下記の番組については、本会議に先立ち、各審議委員にDVDを送付した。)
 - ・「アバローのプリンセス エレナ」
 - ・「やりすぎ配信！ ビザードパーク」
 - ・「電腦ムシオヤジ」
 - ・「ミッキーマウスとロードレーサーズ」

審議の概要

1) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD及びディズニージュニア
番組編成について

各局の番組編成・改編について説明がされ、下記のとおり意見交換が行われた。

(以下●印 審議委員からの意見及び質問、○印 ディズニーからの出席者の回答)

- ディズニー・チャンネルについては、今回ご紹介する「アバローのプリンセス エレナ」が、テレビ東京でも4月2日（日）から放送がスタート。
- 今月16日（土）からは、新シリーズ「マイロマーフィーの法則」も放送がスタートする。主人公のマイロは、「マーフィーの法則」提唱者の末裔という設定。制作は「フィニアスとファーブ」を作ったチームが担当している。クリエイターたちは、自分たちでミュージックビデオや作中の音楽も作ったりするので、二人とも多才な存在。
- 確かに自分たちでしゃべりながら練って作っている感があり、あふれかえる感じがした。「フィニアスとファーブ」は面白くてよかった。同時に、ここまでのものを作るのはとても大変なのだろうとも思った。
- また、本日15:00から「わしも」も放送スタート。NHKでも放送されて、数シーズン作られた人気作品。

- ディズニーXDでは1日（土）から、「ワルノリ！どっきりギャング」が放送スタートした。
- ドッキリの部分は全てリアルにやっているのか？
- 主人公の4人の子供たちが仕掛けるドッキリは本格的でリアルな作りになっている。アメリカでも大ヒットした番組。お子さんたちと番組を一緒に見る保護者の方の反応も見てみたいところ。
- 前回ご紹介した「ピクルスとピーナッツ」については、雑貨類の販売も検討されている。
- 土日15:00の映画枠を、17:00～に変更した。

- ディズニージュニアでは平日17:00～21:00の時間帯は、接触率が高い。夕方の「小さなプリンセス ソフィア」や「ドックはおもちゃドクター」などが安定的に視聴率を取れている。
- 毎週土日夕方となっていた映画枠を、日曜の午前中のみ枠に変更した。
- 知育番組はあるのだろうか？ ある研究結果によると、生きる力を見につけさせるという意味では、3～5歳くらいのお子さんに基礎を教えるのが費用対効果に一番見合っているとのことだが。
- 各番組の本編中に、例えばものの数を数えたりする教育的な要素や、問題をどう解決するか、社会でどう生きるべきかなどといった部分を考えさせる要素が入っている。

2) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD及びディズニージュニア 放送番組について

各局の放送番組について各委員より意見交換が行われた。

(以下●印 審議委員からの意見及び質問、○印 ディズニーからの出席者の回答)

『アバローのプリンセス エレナ』について：

- ディズニー発のラテン系プリンセスのストーリーとして、昨年11月27日から放送スタート。内容は「ちいさなプリンセス ソフィア」とつながりがある。エレナとソフィアの二人のプリセスが出る特別エピソードもある。
- 世界設定や音楽にラテン文化が多く取り入れられているが、他にも多様な文化が紹介されており、日本などをモチーフにした東洋の国やキャラクターも登場する。
- アバローは中東の国かと思った。それらしき雰囲気も感じ、不思議なところがある。
- ナオミのキャラクターは、今までの作品に出てきていなかったような気がする。ディズニー版のツンデレキャラクターというところだろうか？私は私、あなたはあなた、というようなお互い独立した部分がある一方で、ふたりは親友同士なようだ。
- 男性キャラクターが、どこかダラシなくて面白い。器が小さく見えるのがリアルに感じる。
- 歌もファンタジーな部分があって良い。
- エレナのお相手となるような王子様は出てこないのか？
- 彼女が16歳ということもあり、まだ登場していない。エレナは今までの作品にありがちな、か弱いイメージのお姫様としては描かれておらず、今の社会の動きに合わせて、男性に頼らずに自分の意思で強く生きるタイプの女性として描かれている。
- エレナが人の意見を取り入れて物事を進める、という部分も、彼女による独裁ではなく、さりげなく民主主義的な部分が入っているのが良い。
「評議会」という表現は、少し硬い気もする・・・。
- いろいろな動物や精霊が出てくる部分も良い。

『やりすぎ配信！ ビザードバーク』について：

- 3月25日（土）から放送開始したシリーズで、いまどきのティーン悩みや夢をコミカルに描いたストーリー内容。ティーン独特のエッジの利いた音楽などが見られる。
- ダーク役のジェイク・ポールとその兄ローガンなど、実在するソーシャルメディアのスターやYouTuberたちが出演者として出ていたり、脚本にも

携わっている。

- ネット上では、いじめなどが野放し状態になっている部分もあるが、こういったものについては、それが良くないとするメッセージはしっかり入っているのだろうか？
- 例えば、誹謗中傷やなりすましによる被害など、ネット上で起きる色々な問題等もエピソードの題材として取り入れられていて、こういったものが良くない、どう対処したらよいかなどが、メッセージとして入っている。
- 小さい子たちに将来の夢はと聞くと、「YouTuber になりたい」と言う。子供たちを見ていると、ネット上で自分が好きな動画の気に入った部分だけを繰り返し何度も見ている。例えば車が転がっていくような映像を、ずっと見ている。確かに面白いが、危ないものもあると教えることも必要だと思う。親が何でも見せてしまっているのは良くない。
- 簡単にメッセージを発信できるのは良いことだが、これからどう制御していくか、ネットの世界が健全に広がっていくのか、気になるところ。こういうコメディネタの中で扱うのは良いことで、ネット配信も確立していくのはこれから。
- 彼女たちが作るミュージックビデオの背景やCGなどは明らかにプロが造ったもので、手の込んだものになっている。せっかくアイデアは面白いので、中学生が作ったものらしく、もっとシンプルで素朴なほうが、よりリアルな雰囲気になってよかったのではないかな。
- 空気を読めない、何かあったときにそれに即した反応をすぐに示せない等、二人とも今までの主人公のタイプとは少し異なると感じた。
- 二人の関係が、リアルにギクシャクしているところも面白い。その場がシーンと静まって、痛い空気も描かれている。
- 子供目線のドラマは面白い。もっと作ってもらいたい。
- エージェントのバーニーという男の子は、清涼剤になっていて良い。今後の展開が楽しみだ。

『**電腦ムシオヤジ**』について：

- 今年の1月22日から放送スタートした。本作品のクリエイターは、「サウス・パーク」の制作でも知られるライアン・クインシー。
- シリーズの見どころは、ムシオヤジの圧倒的なキャラクター、友情と家族の絆、そして奇想天外な世界とアドベンチャー。
- オヤジという番組のネーミングが良い。また、オヤジがメインキャラクターとして出てくるのが良い。子供はこういう絵柄も好きだと思う。
- 子供が好きそうなので一緒に見てみたが、「現時間軸に戻ってきたときに、宇宙人が世界を壊しているのは、途中で操作を間違ったからだよね？」と

か、「タイソン博士はホログラムで出てきているのに、体にベトベトしたものがかかっているよ」と言った。子供でも内容を理解できて、細かく見ているなと思った。

- 科学的な部分に関しては、ニール・ドグラス・タイソン博士が、理論的には正しいかどうか等をチェックしているとのこと。博士は本編中にもキャラクターとして登場して、ダニー少年とムシオヤジを助ける役割。
- 色々なキャラクターが出てくるのだろうか？先程のエレナに登場するような魔法生物みたいに奇想天外なキャラクターが出てきてもいいと思う。
- 異星人含めて様々なタイプのキャラクターが登場する。いわゆる地球人型の普通のキャラクターは少ない。
- この先がどうなっていくか楽しみ。敵のモンスターが消えるときに音楽をかぶせているが、ガリガリ、ガシャガシャといった音自体が重要で、ある意味主役なのでこういった効果音等は工夫したら良いと思う。

『ミッキーマウスとロードレーサーズ』について：

- 「ミッキー・マウス クラブハウス」が制作されてから約10年が経ち、新たなCGアニメーションのシリーズが制作された。今回のシリーズはリアリティの追及の部分にも力を入れている。
クラシックカーを徹底的にリサーチして各マシンをデザインしており、原語では声優に現役レーサーや有名なTV番組司会者も起用している。
ミッキーたちも世界各地の存在する場所で活躍し、実在人物もキャラクターとして登場する。
- 作品のこめられたテーマとしては例えば、友情、チームワーク、スポーツマンシップの大切さ、社会でのそれぞれの役割、好奇心などがある。
- 「ミッキーマウス クラブハウス」と比較すると、ストーリー展開もテンポが速くなっている。
- 対象年齢が、2歳からとなっているが、うちの孫は今3歳なので、女王が出てきても、彼女をエリザベス女王と認識できないかもしれない。
- このエピソードは、場所は英国・女王・宮殿に招かれる、といったことから、ある程度の年齢のお子さんが見ればエリザベス女王と認識できるかと思う。
- 2歳くらいのお子さんを持つ保護者の方からは好評を得るのではないかな。
- 車の色がカラフルなので、色を見せて比べさせるのは、幼児の色彩感性を育てるには良いので、例えばもう少し登場シーンを長くするといいかも思えない。大人になっても、配色については色々話すので良いと思う。
- レース用のマシン自体も、こどもたちの憧れでもある。
- ピートがいい子だと思う。キャラクターがみんな心優しいのがディズニー

作品のいいところだと思う。

- タイヤを盗むところから始まって良かったのに、プレゼントしようと思
うときに、「こんなタイヤでは喜ばれない」という彼の気遣いの思いがあ
ったのが深い。ピートのような憎まれ役は、モラルが無いところもあるが、
それでも彼の行動は元々思いやりから始まっている。
- 意地悪な子が出てくると、それを見ていじめにつながる部分もあるので、
これは気に入った。ディズニーらしくて、伝え方がやさしいと思う。
- 今まで、ミッキーがシリーズ全体を通して同じ職業をやっている番組は、
あまり記憶に無いと思う。これが初めてではないだろうか？
- 近い例では過去に「ハウスオブマウス」という番組があり、その中でミッ
キーはシリーズを通して、ショーの司会者という立場ではあったが、それ
ほど職業自体が強調されてはいなかった。
- 原語版ではプロのレーサーが声優として参加しているというのであれば、
日本語版でもレーサーを起用するのはどうだろうか？
- 面白いアイデアだと思う。

以上をもって本会議は、議案の審議を終了したので 15 : 30 に閉会した。

上記の議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、本議事録を作成する。